

展示会・講演会のご案内

昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館
 戦後70年3館合同企画 展示会・講演会
 「伝えたい あの日、あの時の記憶」

開催趣旨

平成27年。戦後70年の節目の年を迎え、戦後生まれの世代が大多数を占める今、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、戦争を知らない次の世代への継承を図るため、「昭和館」「しょうけい館」「平和祈念展示資料館」の国立施設3館が連携して、展示会・講演会を開催します。

記

【主催】	昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館
【後援】	千代田区・千代田区教育委員会
【会期】	平成27年8月14日（金）～24日（月）
【開館時間】	午前10時～午後5時
【会場】	千代田区立日比谷図書文化館 特別展示室 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4
【入場料】	無料
【休館日】	8月17日（月）
【交通（電車）】	【都営地下鉄】三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩3分 【東京メトロ】丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩3分 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩3分 【JR】「新橋駅」日比谷口（SL広場）より徒歩10分
【ホームページ】	「戦後70年3館合同企画」公式ホームページ sengo70.jp
【イベント】	講演会 8月22日（土）午後2時～4時 会場：千代田区立日比谷図書文化館 大ホール
【その他】	専用の駐車場はないので、公共交通機関をご利用下さい。
【問い合わせ先】	●展示会について 昭和館学芸部財満(ざいま)：TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575 しょうけい館 荒井：TEL 03-3234-7821 FAX 03-3234-7826 平和祈念展示資料館 熊倉：TEL 03-5323-8711 FAX 03-5323-8714 ●講演会について 昭和館総務課 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575 ※講演会当日取材を希望される方は、8月21日（金）までに昭和館総務課 菊池までご連絡下さい。

講演会のご案内

講演会

日時：平成27年8月22日（土）午後2時～4時

会場：千代田区立日比谷図書文化館 大ホール

入場無料

昭和館「家族をうばった空襲 悲劇は忘れない」（約30分）

春成 幸男さん／大正14年（1925）鹿児島県出身 公益社団法人 三州倶楽部 元会長

昭和20年（1945）東京高等師範学校2年の時、消防署の補助要員として東京大空襲の消火活動等に従事する。陸軍入隊を前に一時帰省した鹿児島での空襲で家族7人を失う。70年前の壮絶な体験を振り返る。

しょうけい館「漫画家 水木しげるの長女が語る戦傷病者と家族」（約30分）

原口 尚子さん／昭和37年（1962）東京都出身 水木しげる氏長女・水木プロダクション代表漫画家・妖怪研究者として著名な「水木しげる（本名：武良茂）」さんは南方ラバウルで受傷した戦傷病者としても広く知られている。激戦地での生活、受傷、そして復員。混乱期の様々な苦勞を尚さんが語る。

平和祈念展示資料館「シベリア抑留者が綴った、苦勞体験手記の朗読」（約30分）

朗読：石丸謙二郎さん（俳優）

シベリアなどの酷寒の地において、わずかな食事で、過酷な労働に従事させられた抑留者の体験手記を朗読する。父親が抑留体験者である俳優の石丸謙二郎さんがその苦勞を伝える。

※出演者、講演内容は変更になる場合がございます。

【観覧ご希望の方は】

「往復はがき」にて次の必要事項を明記して、下記宛先までご応募ください。

（1通につき2名まで応募可能）

【往信用の裏面】・・・①参加者氏名／②ふりがな／③年齢／④(同伴者氏名／ふりがな／年齢)／⑤その他、車いす席希望等をご記入下さい。

【返信用の表面】・・・応募者様の①郵便番号／②住所／③氏名

※160名様をご招待します。応募者多数の場合は抽選で決定します。

【あて先】〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

昭和館 総務課「戦後70年講演会」係

※締切は平成27年7月28日（火）当日消印有効。応募者には8月7日（金）に抽選結果を発送

展示構成

I-1 家族の別れ

出征／無事を祈る

	
<p>臨時召集令状 臨時召集令状とは、戦争で多くの兵士が必要になった際に、徴兵検査で合格した男性を集めるための命令書です。その色から「赤紙」と呼ばれていました。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>	<p>千人針 千人針とは、出征する男性のために、女性たちが武運と無事を祈って作ったお守りです。木綿の布に千人の女性たちが一つずつ赤い糸で留を縫いました。特に、虎の絵柄は縁起が良いとして好まれました。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>

I-2 広がる戦線

戦場での苦しみ

	
<p>軍隊手牒 軍隊手牒とは、陸軍下士官・兵の身分証明書と履歴書を兼ね備えたものです。氏名・生年月日・本籍のほか、所属部隊・兵科・階級・服のサイズ・入営からの軍歴などが書き込まれました。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>	<p>認識票 認識票とは、部隊番号や氏名が刻まれ、個人の識別に使われたものです。これは、満州(現・中国東北部)牡丹江省(現・中国黒竜江省)にいた部隊に配属された兵士に支給されたものです。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>

I-3 受傷

救護・収容／戦時下の療養生活
退院後の社会復帰

	
<p>傷痕軍人証 昭和13年(1938)から、傷痕軍人に対する証明書が陸軍省、海軍省が発行しました。この傷痕軍人証は、恩給、年金、各種の優遇処置が受けられる証明書になります。</p> <p style="text-align: right;">昭和16年(1941) しょうけい館 所蔵</p>	<p>軍人傷痕記章(戦傷) 昭和13年(1938)に制定された軍人傷痕記章は「戦傷」と「公傷」の2種類がありました。戦後も、在庫が無くなるまで支給され、GHQからも佩用(胸に付ける)を許可された記章です。</p> <p style="text-align: right;">しょうけい館 所蔵</p>

II-1 統制下の暮らし

統制のはじまり／代用品／配給

	
<p>洗面器(紙製) 金属製品に代わり溶かした紙を成形して固め、防水塗料を塗って作られた洗面器。 昭和13年(1938)頃から国内民需品の製造・販売が制限されはじめ、綿製品、皮革製品、鉄製品等が対象となった。こうした消費制限により様々な代用品が考案され、政府はその開発や普及に努め、各地で展示会が開催された。</p> <p style="text-align: right;">昭和館 所蔵</p>	<p>衣料切符 昭和17年(1942)2月1日から全国で衣料品総合切符制が実施された。点数制で1年間に購入することのできる衣料品が制限され、都市部では1人1年100点、購入に際し衣料切符を切り取って使用した。</p> <p style="text-align: right;">昭和館 所蔵</p>

II-2 戦中の学童・学徒

戦中の学校／学童疎開

	
<p>通信表 学校ごとに学業成績や身体の状態を児童と保護者に通知するために作成されたものだが、呼称は通知簿・通信簿・通告表などさまざまである。学籍簿(学校が管理する児童の情報を記した帳簿)の内容・仕様は昭和16年(1941)の国民学校の制定に伴って改訂され、同時に通信表の表記法も変化した。尋常小学校(昭和16年以前)では、成績の表記は「一点、二点、…十点」や「甲乙丙丁」であったが、昭和16年に国民学校が発足した後は、その表記は「優良可」などに変わった。 昭和館 所蔵</p>	<p>疎開先で描いた絵 昭和19年(1944)7月から20年10月まで神奈川県箱根に集団疎開した東京の国民学校4年生が描いたもの。寮長の先生から疎開先での生活の様子を毎月1枚ずつ描くように言われ、寮内に掲示していた。 昭和館 所蔵</p>

II-3 銃後の備えと空襲

銃後を護る組織と制度／ 空襲への備え／ 空襲／ 昭和20年8月15日

	
<p>伝单 飛行機によって散布されたビラ。日本語で印刷され、戦意を喪失させるような内容が多く、多数の種類が存在する。これを拾ったものは内容を読まずに警察へ届けなければならなかった。 昭和館 所蔵</p>	<p>防空頭巾 防空服装として、頭を保護するために鉄かぶとや防空頭巾を着用し、身の回りのものを、両手で使えるように肩掛けカバンを携帯した。活動しやすいように、男性はゲートル蒔き、女性はモンペが奨励された。また空襲時の負傷などに備え、衣服には名札を縫い付けておくように指導された。 昭和館 所蔵</p>

Ⅲ-1 廃墟からの出発

戦後の食料事情／戦後の住宅事情／闇市
 混乱期の生活／子どもたちの戦後／遺された家族

<p>墨塗り教科書「初等科国語 八」 (国民学校初等科 6 年後期用) 昭和 20 年(1945)から 21 年にかけて使用された「墨塗り教科書」。終戦後に使われたこれらの教科書は、戦中の教科書中の軍国主義的だったり民主主義に反するような内容の部分を墨で塗ったり、切り取ったりして読めないようにした。 昭和館 所蔵</p>	<p>遺児の作文 遺児である大阪府の宮脇俊夫さんが、高校 1 年生の時に書いた作文。 昭和 35 年(1960)頃 昭和館 所蔵</p>

Ⅲ-2 戦後強制抑留

酷寒の地シベリアへ／ 収容所生活
 強制労働／ダモイ

<p>袖なしの防寒外套 シベリアの冬はマイナス 30～40 度になります。この外套の持ち主は、飢えに耐えかね、現地の労働者が持っていたパンと外套の袖を交換しました。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>	<p>手製の食器類 シベリアに抑留中、白樺の木を削って作った食器です。故郷での食事を思いながら作りました。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>

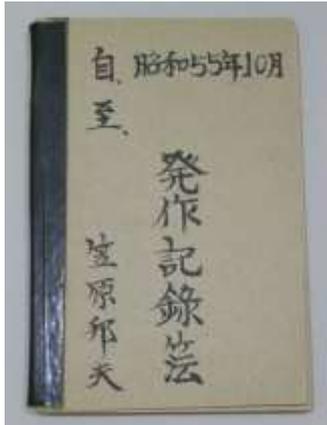
Ⅲ-3 海外からの引揚げ

ソ連参戦による混乱／ 避難民となって／ 帰国

	
<p>おむつで作ったワンピース 満州（現・中国東北部）で生まれた娘に、初めて日本についたときに着せるために、亡くなった赤ん坊のおむつを使って母親が作ったワンピースです。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>	<p>リュックサック 母親たちは、大きなリュックサックを背負い、大きな荷物を持って、子どもを連れて日本を目指しました。この手作りのリュックサックに、食べ物や着る物をできる限りつめました。 平和祈念展示資料館 所蔵</p>

Ⅲ-4 戦後の労苦

終戦 占領そして戦後復興
 経済成長とくらしの変化／傷病とともに生きる
 さまざまな戦後／さまざまな労苦

	
<p>質札(布団) 再開された恩給だけでは、生活費にはとても足りませんでした。貴金属、よそ行きの着物などから質屋に預け、少しばかりのお金を借りました。預けるものがなくなり、最後には自分たちが寝る布団まで現金に変える生活でした。 昭和34年(1959) しょうけい館 所蔵</p>	<p>発作記録簿 頭に残った砲弾片は、摘出したあとも外傷性癲癇の発作という後遺障害が残りました。戦争は終わっても、発作との戦いは亡くなるまで続いたのです。 昭和55年(1980) しょうけい館 所蔵</p>

IV 復興に向けて



東京駅に停車中の新幹線

昭和39年(1964)10月
太田峻三撮影
昭和館 所蔵